



Title	博士論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査報告書
Author(s)	北海道大学附属図書館
Citation	1-21
Issue Date	2007-01-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/18639
Type	report
File Information	20070131report.pdf



[Instructions for use](#)

**博士論文のインターネット上での公開に関する
アンケート調査報告書**

平成 19 年 1 月 31 日

北海道大学附属図書館

目次

回収状況	1
別の研究者の博士学位論文を読みたい場合があるか	3
あなたの博士学位論文を読みたいという申し出があったら	5
博士学位論文のネット上での公開・相互利用について	8
HUSCAPでの電子公開について	11
HUSCAPでの電子公開を希望しない理由	16
その他、欄外部分等へのコメント	20
巻末・依頼文書及びアンケート用紙	

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）

<< 回収状況 >>

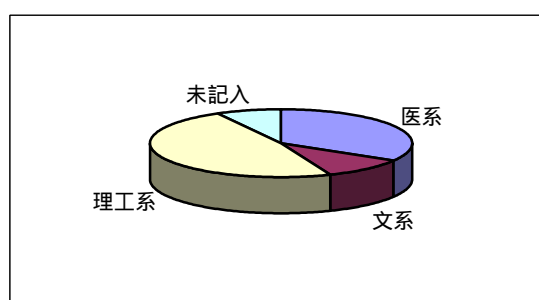
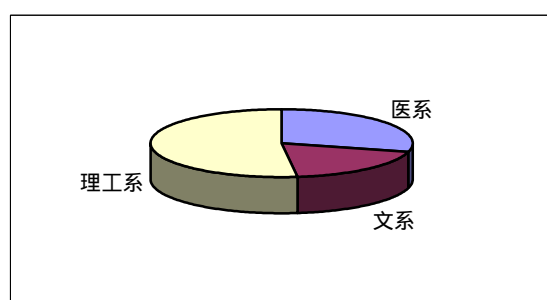
回収状況（全体）

配布数	回答数	割合
2,150	794	36.9%

回収状況（分野別）注1

	配布数	割合
医系	619	29.1%
文系	405	19.1%
理工系	1,101	51.8%
全体	2,125	100.0%

	回答数	割合	配布数に対する割合
医系	266	33.5%	43.0%
文系	83	10.5%	20.5%
理工系	381	48.0%	34.6%
未記入	63	7.9%	
	793	100.0%	37.3%



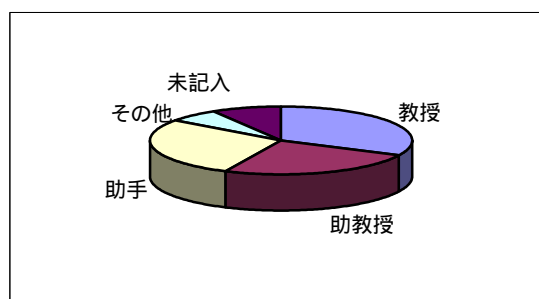
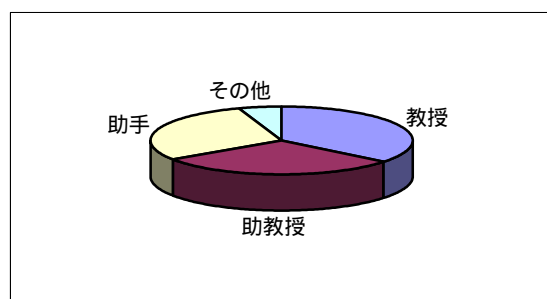
配布した割合

回答の割合

回収状況（身分別）

	配布数	割合
教授	759	35.7%
助教授	636	29.9%
助手	618	29.1%
その他	112	5.3%
合計	2,125	100.0%

	回答数	割合	配布数に対する割合
教授	255	32.1%	33.6%
助教授	198	24.9%	31.1%
助手	223	28.1%	36.1%
その他	49	6.2%	43.8%
未記入	69	8.7%	
合計	794	100.0%	37.4%



配布した割合

回答の割合

注1 分野別の部局は下記の通り

医系： 医、歯、病院、薬、獣医、遺制研、医短

文系： 文、教育、法、経済、言文、国広メ、スラ研、留学セ、高機セ、博物館、知的財産

理工系： 理、工、農、水産、地環、情報科学、低温研、電子研、触媒研、情報セ、先端研、量子集積セ、北方圏、創成科学

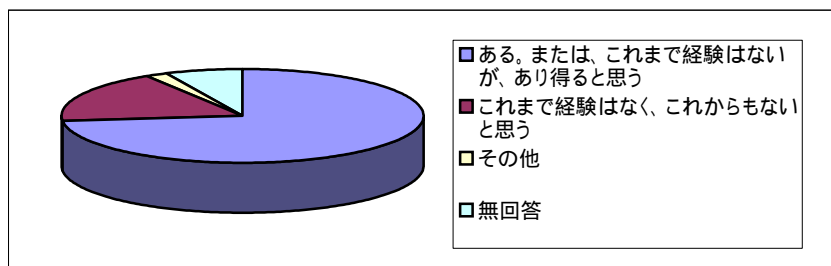
回収状況について

- ・配付数に対する回答数全体については36.9%となっており2年前に実施した類似のアンケートの回答率21.8%よりも増加しており全体としての感心が高まってきている事を表していると思われる。
- ・分野別の回答率を見ると[医系]>[理工系]>[文系]となっており、文系は医系に比べて半分以下の回答率である。一見、論文記述者自身が論文を記述する際に、他者の論文を参照する機会が高い分野ほど感心が高い事を表しているように思われるがQ1の回答では逆転している点をどう見るべきか検討が必要である。
- ・身分別の回答率では[助手]>[教授]>[助教授]となっており、助手と助教授の差も3%であり身分の違いによる感心度には、あまり差が無い事がわかる。

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
 << Q 1 別の研究者の博士学位論文を読みたい場合があるか >>

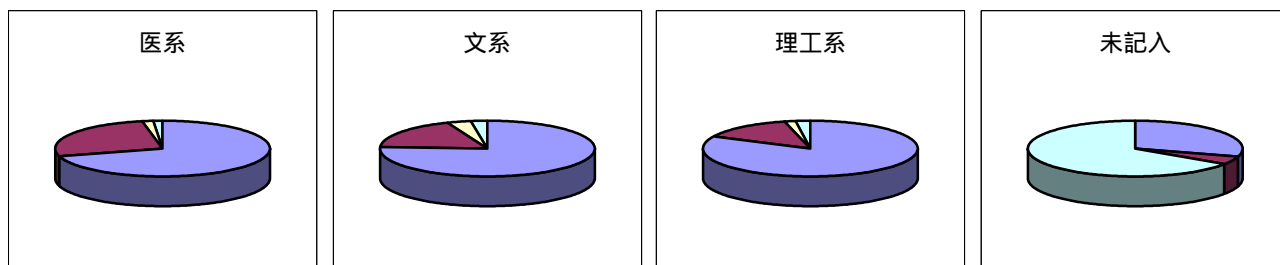
Q 1 回答（全体）

	回答数	回答率
ある。または、これまで経験はないが、あり得ると思う	583	73.4%
これまで経験はなく、これからはないと思う	141	17.8%
その他	14	1.8%
無回答	56	7.1%
合計	794	100.0%



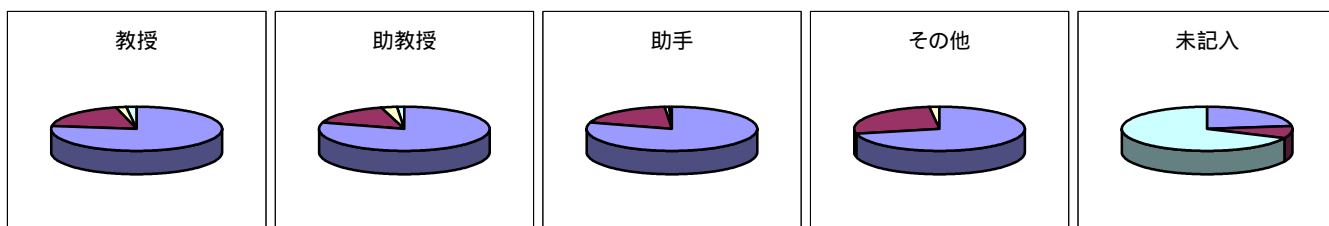
Q 1 回答（分野別）

	医系	文系	理工系	未記入	合計
ある。または、これまで経験はないが、あり得ると思う	188	63	313	19	583
これまで経験はなく、これからはないと思う	70	15	53	3	141
その他	4	3	7	0	14
無回答	4	2	8	42	56
合計	266	83	381	64	794



Q 1 回答（身分別）

	教授	助教授	助手	その他	未記入	合計
ある。または、これまで経験はないが、あり得ると思う	196	158	178	35	16	583
これまで経験はなく、これからはないと思う	49	31	42	13	6	141
その他	5	6	2	1	0	14
無回答	5	3	1	0	47	56
合計	255	198	223	49	69	794



Q 1 別の研究者の博士学位論文について

- ・全体で見ると、約3/4が、別の研究者の学位論文を見る可能性を示唆している。
- ・分野別や身分別でも多少の差はあるが大きな違いは無い。
- ・「その他」の意見としては否定的な物が多く、代表的な意見としては『読みたいレベルのものは既に別の論文として発表されている』、『海外の学位論文は読みたいと思った事はあるが、国内では公開されていないけども入手可能』等で、これは学位論文という性質に起因しているようだ。
- ・中には『論文より審査報告書を見たい』との意見もあり、これも学位論文ならではの意見である。

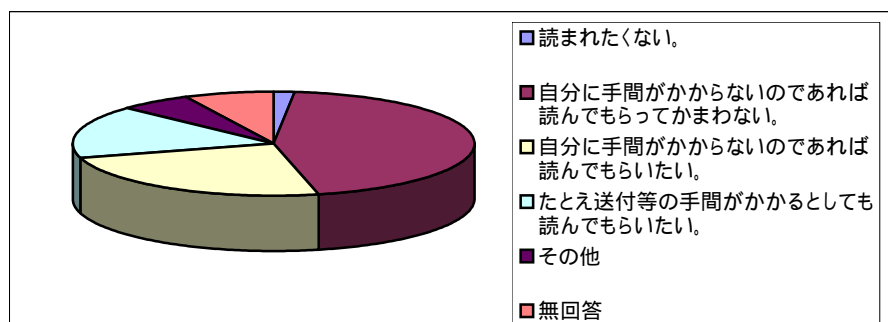
Q 1 「その他」の回答

- ・paper上で反論できるような公開でなければ無意味。
- ・おそらく公開しても良いDATAは、すでに論文にされていると思われる。他人の未発表のDATAやアイデアをあえて見ることに罪悪感を感じる。
- ・かつてあった。
- ・これまではない。今後はわからない。
- ・ただし外国の大学のもの
- ・ほとんど
- ・過去にはあったがこれからは無い。公表論文として読む。
- ・外国の学位論文が欲しかったことはある。日本はない。学位論文がなくても日本の場合、なんとか情報は手に入る。
- ・関係の学位論文は全て所持。
- ・検索の結果、pdfファイルをダウンロードした
- ・国内の研究者は、論文中に学位論文を引用することがないので経験はないが、かつて海外の研究者の論文を読みたいと思ったことがあった。
- ・今のところ、学位論文に限って、読みたいと思ったことがない。
- ・最も入手し易い資料が学位論文だったことがある。
- ・参考文献にthesisとある場合
- ・出版された文献を読むか、直接本人からいただく場合が多い。
- ・出版されている原著論文、総説等で文献として引用されている場合。
- ・多くの場合、主な研究内容は学会に公表する学会論文でほぼ十分
- ・通常読むに値するものは、出版されています。出版がないのは、下らない論文の可能性大です。
- ・必要にせまられ読むときがあるが、たいていは何らかの刊行物として不自由しない
- ・論文そのものよりも、まず内容事項と審査報告書を読みたい
- ・ほとんどの場合は本として出版されているので読める

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
 << Q2 あなたの博士学位論文を読みたいという申し出があったら >>

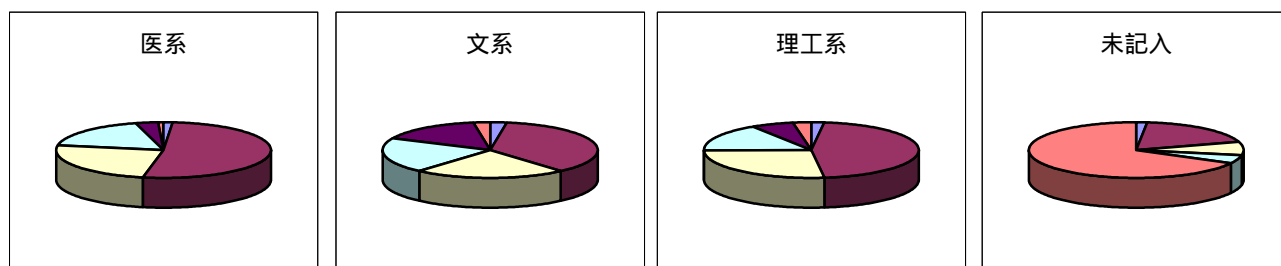
Q2 回答（全体）

	回答数	回答率	合計 85.1%
読まれたくない。	14	1.8%	
自分に手間がかからないのであれば読んでもらってかまわない。	355	44.7%	
自分に手間がかからないのであれば読んでもらいたい。	192	24.2%	
たとえ送付等の手間がかかるとしても読んでもらいたい。	129	16.2%	
その他	46	5.8%	
無回答	58	7.3%	
合計	794	100.0%	



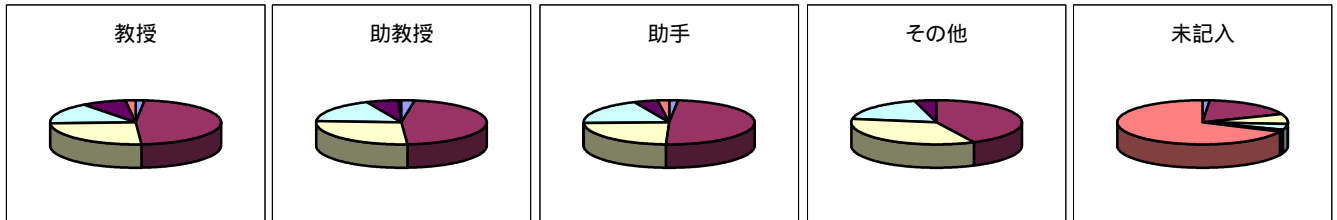
Q2 回答（分野別）

	医系	文系	理工系	未記入	合計
読まれたくない。	4	2	7	1	14
自分に手間がかからないのであれば読んでもらってかまわない。	137	30	176	12	355
自分に手間がかからないのであれば読んでもらいたい。	66	19	102	5	192
たとえ送付等の手間がかかるとしても読んでもらいたい。	48	17	61	3	129
その他	9	13	24	0	46
無回答	2	2	11	43	58
合計	266	83	381	64	794



Q2 回答(身分別)

	教授	助教授	助手	その他	未記入	合計
読まれたくない。	4	5	4	0	1	14
自分に手間がかからないのであれば読んでもらってかまわない。	121	92	109	21	12	355
自分に手間がかからないのであれば読んでもらいたい。	64	53	53	17	5	192
たとえ送付等の手間がかかるとしても読んでもらいたい。	40	35	42	9	3	129
その他	21	12	10	2	1	46
無回答	5	1	5	0	47	58
合計	255	198	223	49	69	794



Q2 あなたの博士学位論文を読みたいという申し出があったら について

- ・全体で見ると「読んでもらいたい、読んでもらってかまわない」との肯定的な意見が85%を越えている。これは前問での「読む可能性」(73.4%)よりも「読まれる可能性」(85.4%)のほうが大きく「自身は読まなくても、読まれてもよい」と考えている者が1割り程度いる事がわかる。
- ・分野別では他に比べて[文系]が否定的な意見が若干多くなっている。
- ・身分別では特に大きな違いは見受けられない。
- ・「その他」の意見としては「相手が不特定な場合は抵抗ある」、「読みたい理由による」等条件的な意見と「読める媒体を紹介する」の積極的な意見が多い。

Q2 「その他」の回答

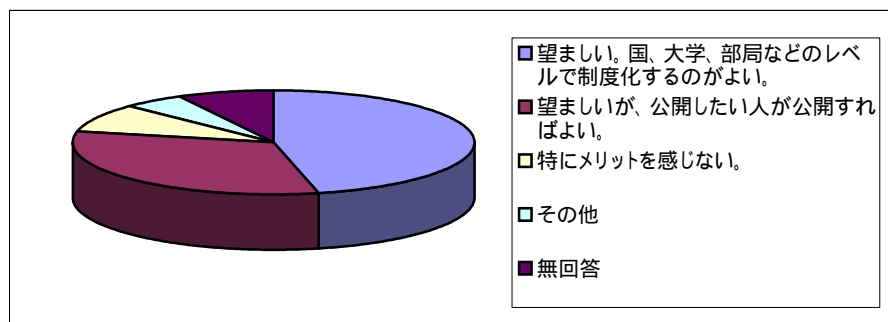
- ・2と3の違いがわかりません
- ・3年間ほど学位修得のあとだったら。
- ・ただし、知的財産等の権利に問題がない限り。
- ・興味本位で読んでほしくはない。
- ・昔は一般公開を想定してないので好ましくない。公表済の雑誌論文ならよい。
- ・D論のほぼ全内容を投稿済なので、そちらを送付する
- ・publishされているので必要ない。それに20年以上昔のものを今更読む人がいるとは...
- ・かなり問合わせがあるので、是非ネット化してもらいたい。
- ・これまで13年間そのような申し出はなかった上、学術論文として出版されているので可能性がない。
- ・すぐ送付する。
- ・すでにほぼ全ての内容を科学雑誌にて発表しているのでそちらを送付する。
- ・すでに公開しているので
- ・すべて、学会論文誌に掲載済であるため、論文リストを送って、正規のルートで入手してもらう。
- ・その後の出版物によって読んでいただきたい
- ・どういう人が読んでくれたか、必要な時、相手のメールアドレスなどがわかるようにしてほしい。
- ・まだ論文がないので
- ・もう昔のことなので、その可能性はほとんどない。
- ・学位未取得
- ・学位論文を別の形でジャーナルに掲載されているので、そちらを紹介する。
- ・学位論文がない
- ・学術雑誌を見るように言う。
- ・慣例として送付するが、生物系はインパクトファクターのある雑誌論文なので、申し出はないであろう。?
- ・基本的に学位を取得した大学で読んでもらいたい
- ・基本的に博士学位論文の内容は、雑誌などに公表するのが原則なので、学位論文自体を読む必要はないはず
- ・既?の??(印刷物)と?????なのであればOK
- ・研究者の名前と希望する理由が妥当であれば可。

- ・国会図書館を利用してもらおう
- ・参考論文八方を読んでもらいたい。
- ・私自身は博士の学位論文を持っていないので、仮定での話。
- ・実務家教員であり、博士学位論文はない。
- ・手間がかかってもよいし、読んでもらってもかまわない。
- ・出版されているので、そちらを見てもらえばよい。
- ・出版されているので、それを読んでもらいたい。
- ・出版されている紀要を案内する。
- ・出版されている論文をよんでもらいたい。
- ・出版しているので、入手していただきたい。
- ・出版済のため、学位論文参照の必要がない。
- ・出版済の為、そちらで読んでもらいたい。
- ・状況にもよる。
- ・全く、その為の時間を要求されるのは心外かつ、不当です。
- ・相手による
- ・相手の、身分と使用目的による。
- ・相手の事情による。
- ・但し、学術論文発表後
- ・但し、学術論文発表後学位論文の中にはまだ、研究論文として公開していない部分が残っているものについては本人の同意の上で。
- ・著書となっているので、書名を連絡する。
- ・著書を紹介する
- ・投稿論文の別刷を渡す。
- ・内容の全ては別のjournal上に載せてあるので、そちらを見てもらうよう連絡する。
- ・内容は学術雑誌に掲載であり、その別刷を送る。
- ・内容は全て原著論文になっている。
- ・内容は全て公表済のため、公表先を連絡することで解決する。
- ・不特定ではなく、共同研究者や利害が一致する人であれば、読まれたい。それ以外は不可
- ・別刷を送るか、掲載誌を知らせる。
- ・本
- ・理由による。
- ・理由を知りたい。
- ・本として千部出版されたので、どこの図書館にもある

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
 < < Q3 博士学位論文のネット上での公開・相互利用について > >

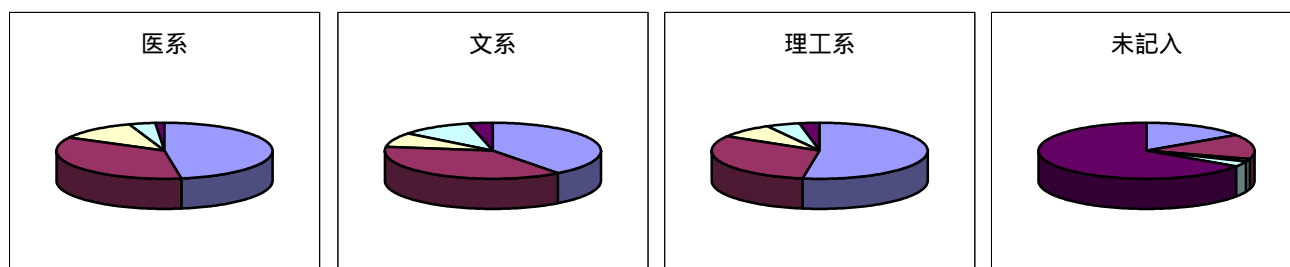
Q3 回答（全体）

	回答数	回答率	
望ましい。国、大学、部局などのレベルで制度化するのがよい。	369	46.5%	合計 78.3%
望ましいが、公開したい人が公開すればよい。	253	31.9%	
特にメリットを感じない。	71	8.9%	
その他	40	5.0%	
無回答	61	7.7%	
合計	794	100.0%	



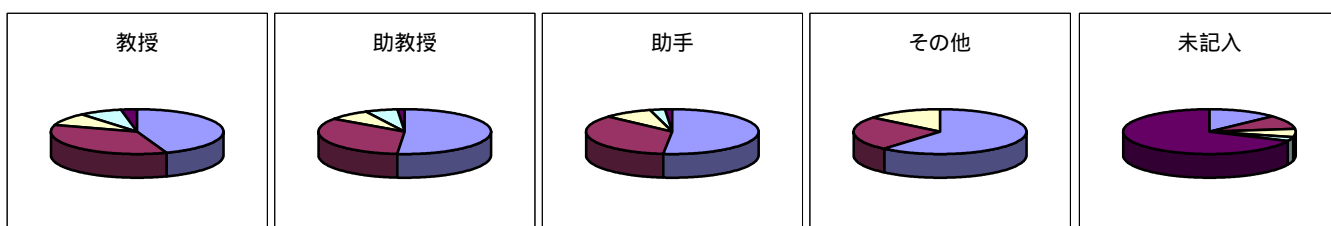
Q3 回答（分野別）

	医系	文系	理工系	未記入	合計
望ましい。国、大学、部局などのレベルで制度化するのがよい。	126	33	200	10	369
望ましいが、公開したい人が公開すればよい。	94	31	119	9	253
特にメリットを感じない。	32	7	31	1	71
その他	10	9	19	2	40
無回答	4	3	12	42	61
合計	266	83	381	64	794



Q3 回答（身分別）

	教授	助教授	助手	その他	未記入	合計
望ましい。国、大学、部局などのレベルで制度化するのがよい。	113	102	115	30	9	369
望ましいが、公開したい人が公開すればよい。	90	66	78	12	7	253
特にメリットを感じない。	24	15	21	7	4	71
その他	20	12	6	0	2	40
無回答	8	3	3	0	47	61
合計	255	198	223	49	69	794



Q3 博士学位論文のネット上での公開・相互利用について

- ・全体的には「望ましい」が78.3%となっており、概ね肯定的である。
- ・分野的には前問と同様に[文系]では肯定的な意見が若干少なくなっているが、その内訳は「メリットを感じない」という否定的な意見が増えているわけではなく、「その他」の意見が多くなっている為である。
- ・身分的には肯定的な意見の割合には違いは見られないが、[助手]に否定的な意見が少なく、[教授]、[助教授]に「その他」の意見が多い。
- ・「その他」の意見としては、「公開年数に制限が必要(古いものに価値ない為)」、「分野、領域によって必要性が異なる」、「すでに別媒体で公開されている」、「同様の内容を雑誌に掲載するので(即時)公開は不可」、「必要性を感じない」等

Q3 「その他」の回答

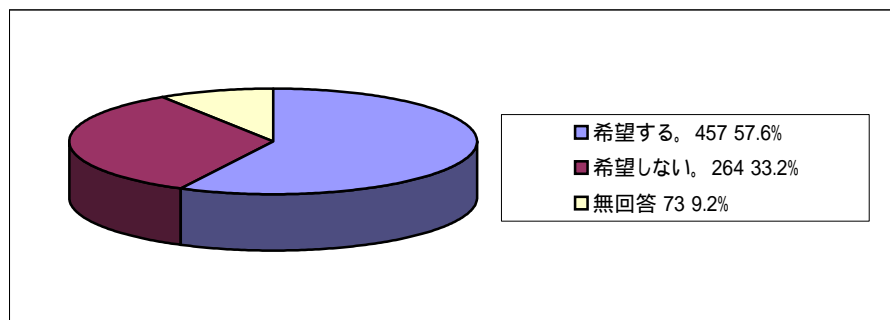
- ・3~5年後に公開するのはOK。その内容は学術論文になっているので、ぬすまれない。
- ・Lostとの関連
- ・維持費用しだい
- ・大穴のように問題がある。一般のJouenalは未発表を必要条件としている。これとの関係が問題となる
- ・多くの図や文章は論文として出版されているため著作権侵害していないか心配。
- ・オンラインジャーナルがあるので、必要ないと思う。
- ・開示する相手について諾否を著者の教員に確認する必要がある。
- ・学位とりたての人(5年以内)は学術論文として公表前のデータを含んでおり公開はひかえるべきだ
- ・学術論文に掲載後ばら構わない。
- ・基本的にその内容はReviewのある雑誌に公表すべき。
- ・研究の分野によって、望ましいか否かが異なると思う。
- ・現在考慮中
- ・現状では研究のOriginal?の確保等で問題あり。
- ・公開が当然
- ・公開したい人がすればよい。望ましいか否かは別問題
- ・公開した人が公開する頁・分量を選択できればよいと思う。
- ・公開を論文受理から1~2年後とする。
- ・国際誌などに発表する前にネットで公開した場合、originarityが失われ、受理されない可能性がある。
- ・個人では出版している
- ・コストとのバランスを考えると、古いものは価値を考慮して電子化するとよい。
- ・国会図書館で形式に依らずこうかいする。北大はリンクをはる。
- ・今後、執筆される論文については、ネット公開されることを前提にしておくことが良い。
- ・雑誌に公表されているものはネット上で公開されてよい。
- ・実験生物や医学の分野では10年以上古いものは意味をなさないのでは。新しいものはこれから制度化してもいいと思う。
- ・自分たちの分野では学術雑誌で発表した論文の内容が重視されるため、学位論文、学会発表データはあくまで参考程度にしかありません。
- ・上記同様。印刷されたものに限る。
- ・商業誌に公開されない部分を読めるのは興味深い。逆に査読誌に出てないせいで信頼性に疑問をもってしまう。結局読んでも自分の研究の方針には反映させないとおもう。
- ・数年(出版後)間であればメリットあり。
- ・制度化には全面的に反対。
- ・相互利用は進めるべきだが「ネット上での公開」が無償での閲覧を意味するのだとしたら疑問をもつ。研究成果の入手については、それなりの代価を払うべきではないか。私は際限なく情報をネットに載せ、簡単にやり取りする仕組み、必ずしもいいとは思わない。
- ・対応する出版論文の発行までの公開猶予の仕組みが必要なのは。
- ・ただ4の中いくつかある理由が該当しますが、提出間もないものについては、2,3などの理由で一定期間公開できないものもあると思います。
- ・ただし事前に情報開示の許可をAuthorにとる。
- ・著作権上の問題をクリアしてならOK。盗用される可能性があるなら不可。
- ・特に意見はありません。
- ・日本語で、日本国内のみ。研究費は国から支出(税金)
- ・ネット上では公開する必要はなく、希望に応じて対応することで良いと思う。
- ・ネットに掲載すれば、出版の義務を果たしたことになるのであれば賛同する

- ・望ましいがコストが難点
- ・望ましいと思いますが、分野によって効果は大きく異なると思います。
- ・望ましく、将来的に制度化すべきだが、現段階では問題もあり？に限定すべき。
- ・博士学位論文の内容は、別に？として雑誌に載っているため、学位論文を読みたいと希望する人は本当にいるのだろうか。
- ・博士論文の位置付けについて各部局が意見をまとめた上で制度化が必要ならすればよい
- ・博士論文の全部、一部は学術雑誌に掲載されている？？？がある。先に公開してしまうと、ほかのjournalにせられずデメリットの方が大きい。
- ・博士論文は公刊するのが義務となっており、公開しないのは、そもそも制度違反である。ヨーロッパではこれが常識である。
- ・博士論文はまだプロのレベルではない(Ph.D.の場合)
- ・必要な人が多いなら整備すべき
- ・博論そのものよりも、内容事項としんさ報告書を学位をとった出身大学がこうかい(義務化)すべきである
- ・分野によると思う。
- ・本人と主査、両方の同意がなければ公開するべきでないと思う。
- ・未公開のデータを含むことが多く、それらが論文として公表された後に公開するのはよい
- ・読む方の事情による。
- ・領域によって異なるだろう。我々の医学領域においてはjournalにpublishされたものでなくては意味がない
- ・和文の場合、ほぼ国内利用に限られるので、メリットが少ない。
- ・学術論文としてほとんどの内容を公開済み。そちらを読んでもらうほうが効率的だと思います。
- ・費用対効果の点で疑問がある。
- ・望ましい。制度化は必要ないが大学、部局などのレベルで公開の作業を行っていただけるとありがたい。
- ・和文の場合、ほぼ国内利用に限られるので、メリットが少ない。

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
 < < Q 4 HUSCAPでの電子公開について > >

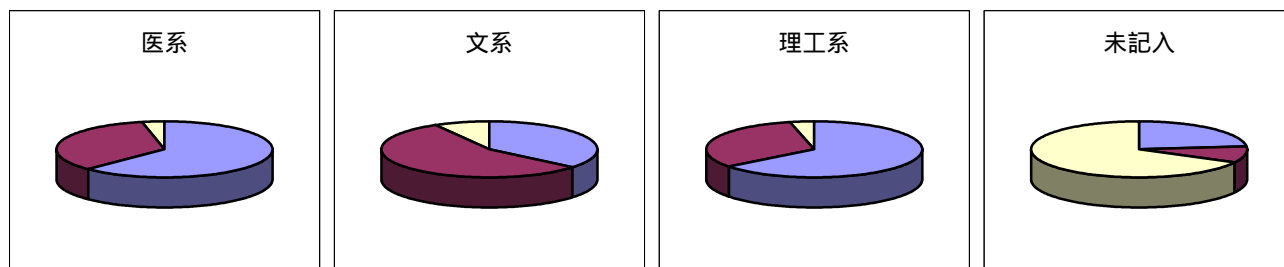
Q 4 回答（全体）

	回答数	回答率
希望する。	457	57.6%
希望しない。	264	33.2%
無回答	73	9.2%
合計	794	100.0%



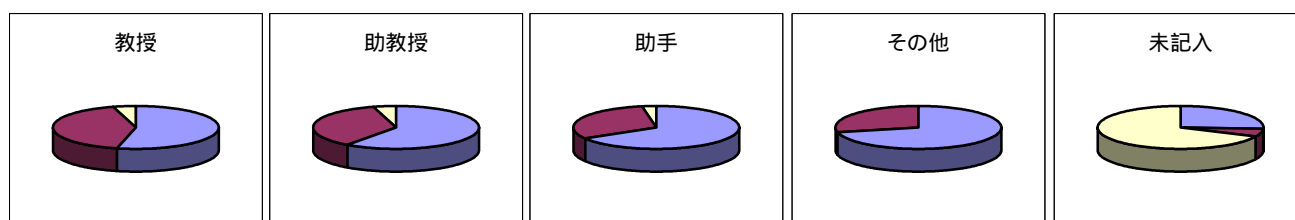
Q 4 回答（分野別）

	医系	文系	理工系	未記入	合計
希望する。	166	30	246	15	457
希望しない。	91	46	121	6	264
無回答	9	7	14	43	73
合計	266	83	381	64	794



Q 4 回答（身分別）

	教授	助教授	助手	その他	未記入	合計
希望する。	137	119	148	35	18	457
希望しない。	107	70	69	14	4	264
無回答	11	9	6	0	47	73
合計	255	198	223	49	69	794



Q 4 HUSCAPでの電子公開について

- ・全体については約半数以上が「希望する」となっている。これは前問の「望ましい」より多く、「望ましいが…」の一部の人が「希望する」となっている事を表していると思われる。
- ・分野別では、はっきりとした特色が現れ、[文系]の「希望しない」が56%と突出している。
- ・身分別では「希望する」の割合は、[助手]>[助教授]>[教授]となっており学位論文を執筆してからの経過年数が多いと思われる身分ほど、公開の希望率は低くなっている。

Q 4へのコメント

- ・(内容は全て論文として公開されているので) HUSCAPでの公表の有無は別としてPDF化して保管することは賛です
- ・他大学に提出したものであり、先方の承諾の要不要を確認したい。・現在一部を投稿中であり?時に既発表内容ととられる恐れがある。この問題を抱える方は全国に多いと思います。
- ・学位論文の内容は、学術誌に掲載する(あるいは掲載済)ことから、先に公開されてはまずい。また、他のjournalに公開されたものは、著作権上の問題をひきおこす。
- ・出版により十分公開の??はみたしている 国会図書館に納本済みで、それ以上に公開する必要はない。博論たいとも国会図書館の検索システムで、又、他の媒体でも検索可能である。(出身大学のHPでも事項審査報告がすでにこうよ公開されている 北大出身者の博論を審査報告も含めて図書館のHPで公開すべきである
- ・20年以上のもので、紙でしかなく手間がかかる。
- ・30年前である。
- ・3と4のケースが問題となる。?は北大にはないので。
- ・4の「学位取得に既発表論文の抜刷を用いたため、出版社に著作権がある。」これかもしれない
- ・700余ページの論文をほんとうにデータベース化できるか。
- ・HUSCAPについて良く知らないため、判断できない。
- ・OK
- ・Online journalで公開されておられ、HUSCAPで公開する必要がない
- ・あえて公開しなくても、検索できる。
- ・あまりに古く手書のものだから。
- ・いくつかの論文として既発表であり、学位論文にしか書かれていない内容は特にない。
- ・上に記した通り、その種の論文を持っておらず、将来ももつ意志がないので、答える資格がない。
- ・学位取得が他大学なので、北大の成果として公開することには疑問がある。但、公開方針が明確かつ妥当であれば希望する
- ・学位取得後、別途出版しており、そちらを見てもらえばいい。
- ・学位取得後、別途出版しており、それを見ればよいので。
- ・学位取得後に加筆、修正、更新したものを出版しており、内容の陳腐化した学位論文を公開する必要を感じません
- ・学位取得大学にて公開済み。
- ・学位は取得した大学において公開されるべきと考える。研究者は基本的に移動するため、一時期北大にいて学外の仕事をHUSCAPで公開すると言うのは合理的でない。研究者の移動をトレースできるようなシステムは必要。その上で学位論文を含め論文にたどりつく方法を作る必要がある
- ・学位未取得
- ・学位論文がない
- ・学位論文の作成にあたり、利用した自分の研究はすでに英文で発表しており、必要性をかんじない
- ・学位論文の内容は、ほとんど原著論文等として出版済みである。もし、電子公開するとしても学位を取得した大学で公開した方が良いと思う。
- ・学位論文の内容は学術誌に発表済みで、そちらのほうを引用してもらいたい。
- ・学位論文の内容は既に、公のジャーナルに発表済みであり、学位論文を公開してもあまり意味がない。
- ・学位を出した大学が、行うのがよいと考える
- ・学術雑誌での未発表のデータがあるため。
- ・学術誌に投稿予定のため。
- ・学術論文?として、既に大部分を公開しているため。
- ・学術論文に掲載後ばら構わない。
- ・関連論文で充分。
- ・希望しない訳ではありませんが、30年近く古いので後まわしで結構です。
- ・希望する理由がない。研究は人と人であることが大切。情報ばかりにお金を使って良いのでしょうか。
- ・希望はしますが、著作権の問題があるかもしれません。
- ・興味のある方が連絡してくだされば送付しています。

- ・現在作成中
- ・現在でも価値はあるが、内容の大部分は国際学雑誌投稿論文としてあり、学位論文そのものに対する利用は現実的に少なく無駄な手間でありタイトル等のみの公開で充分と考える
- ・現在となっては内容に価値がないと思われるが希望する。
- ・現在となっては別途論文として印刷公表している。
- ・現状のコピー投稿氾濫の時代に、著者の権利を守る術が明確でない状態では、希望できません。良い表現が見つかりませんが「開示 放出」と思います。
- ・公開しても良い内容は、論文(学術)になっている。
- ・公開はかまいませんが特に希望もしません。
- ・国際雑誌への未発表データが含まれているので、発表後であれば公表してもよい。
- ・国会図書館の予算で電子化(wordprocessorで入力)して公開し、それにリンクをはる。
- ・この点に問題がないのであれば公開希望します。図書館の方で調査していただければ、あえて公開する必要はない(すでに出版されているので)
- ・これから提出予定。
- ・これからの仕事を見てほしい。
- ・雑誌掲載なのでいつでも引用可能です。
- ・残念ながら博士の学位をもっておりません。
- ・試験場研究報告として公開した。現在Webでも公開されている
- ・自身の学位論文については20年前に作成したものであり、その内容は学術論文として発表しているのだから必要を感じない。主査として審査した論文の内容の一部は投稿中、投稿予定の内容が含まれる場合があり、それらがすべて修了すれば可能と考える。一定の基準はなく個別に対応すべきである
- ・執筆中
- ・主たる内容を英文雑誌に発表している。
- ・出版されており、そちらの方が表現等改善されているため。
- ・出版社に著作権があるものが含まれます。ただし、私が書いた論文で論文で使った？です。
- ・出版済みである為。
- ・主要成果は論文で公表済。
- ・主要部分は論文で公開済み。
- ・新ベースである。
- ・すでに印刷され、PDF化されている
- ・既に英国図書館に英語版が登録されている。
- ・既に学術雑誌に発表した。
- ・既に国際誌に公開済みであり、引用等は、公開した論文を使ってほしい(サイテーション回数が増えるので)。また、国際誌に発表する際に何度かリバイスさせられているので、論文としては、そちらの方が洗練されているため。
- ・既に出版されていますから、改めて公開の必要はない。かつ出版社に損害を与え、加えて、印税が減少します。故に公開は不可能か希望しません。****「*****」(***・xxxx年)と表示してください。
- ・既に総合論文の形で出版社が発行している雑誌に内容が掲載されているため、今さら公開する必要性がない。
- ・既に内容を学術論文として公表出版していることと内容的に古い。(1984年)
- ・すでに複数の論文発表をしており、それを読まれることを希望する
- ・すでにほぼ全ての内容を科学雑誌にて発表しているのだからそちらを送付する。
- ・すでに論文化済み
- ・すでに論文として発表されている。
- ・すでに他者が手に入れることが可能(英文Journalにのっている)
- ・既発表論文で内容を公表している。
- ・正確にいうと不可能ではないか。出版された本をご参照していただきたい
- ・正式な版をもっていない。国会図書館・東大図書館・東大の学位論文はだれのものか。
- ・製本した論文には、未発表の内容を含むため。
- ・設問2の通り、すでに全内容を学術論文として公表済のため。
- ・その他 特に意見はありません。
- ・他大学
- ・但し、Copyrightの問題がある。
- ・ただし、すでに出版社から出版済みです。この場合どうなるのでしょうか。
- ・誰が読むかわからないのが気持ち悪いのと、(どんな風に利用されるかわからない)今読むと文章の若さ、つたなさも見えてしまいはずかしいのであまり、公開したくない。そういう制度なら公開してもよいが希望者のみでは率先してこうかいする際には……。
- ・データは古く、またすでに論文として出版されている。私の分野(半導体・デバイス)では重要な結果は論文か

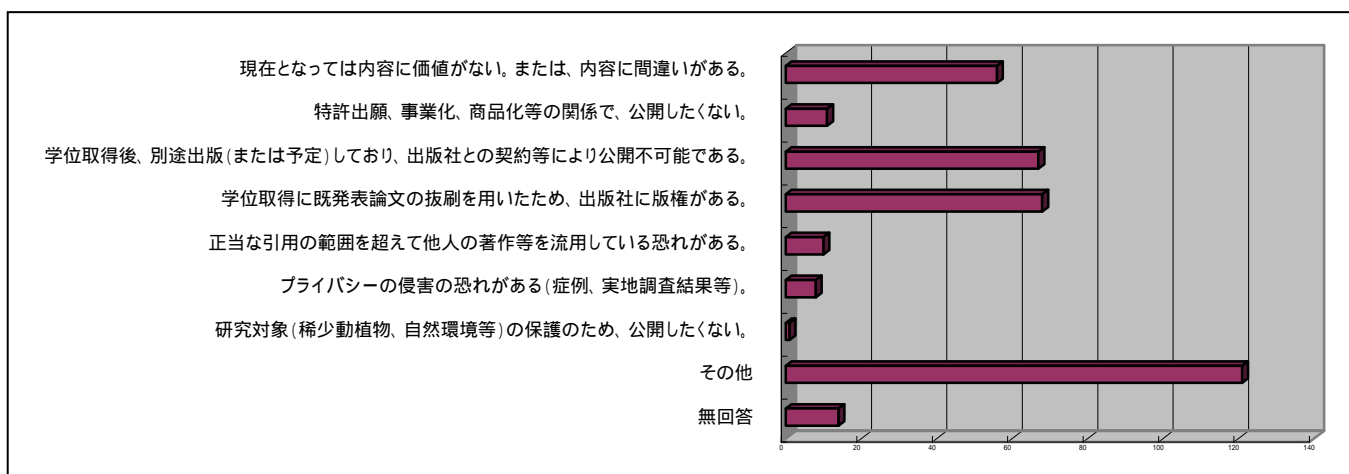
- ・ら情報を取っている場合がほとんどです。
- ・手書きであり、公開は困難である。
- ・手元にない(学位取得はS53年)
- ・手元にない。
- ・電子化の手法によって公開の価値を失う。
- ・電子媒体になっていないのであまりにも手間がかかりすぎる。
- ・電子ファイル化するのが大変。個別の論文として公開済みなので必要ない。日本語なので流通性が良くない。
- ・統計数理研究所の論文雑誌(欧文)で、既に中心部分が公表されており、電子化もされている。
- ・どうしてもというのなら構わないが、一応同意書は書いておきます。
- ・東大で取得したため北大の蔵書がない。
- ・同内容のものが、他の学術誌で公開されている。HUSCAPで公開されているものもあるし、出版社に問い合わせ中のもある。
- ・読者の良識が、今の日本では期待できない。
- ・特に希望しないという意？
- ・特に希望もしないが、公開してもよい(この選択肢もあるべき)
- ・どこの図書館にでもおいてあるJournalに載っているのだから、必要性を感じない。
- ・どちらでもよい。
- ・どちらでもよい。
- ・どちらでもよい。北大で取得した学位ではない。
- ・内容が別に論文誌に発表されており、意味がない。
- ・内容は、Journal等で報告している。
- ・内容は既に学術論文として公開されている。また同じ図を用いており、著作権のことがよくわからない。共著者の許可をとるのが面倒。
- ・内容はほとんど学術雑誌に公開されている。
- ・日本語の論文であるため、公開してもあまり意味がないように思える。
- ・博士学位論文を書いていない
- ・博士学位論文を書いていないから。
- ・博士学位論未取得にて。
- ・博士論文のうち公開しても良いDATAは学会論文として公表している。また、卒論、修論、博士論文の内容は、公表された学会論文以上に、未解決のDATAや課題、アイデアが詰まっている。？
- ・博士論文の内容を大幅に修正し、発展させたものを昨年刊行したので、そちらを参照願いたい。
- ・博士論文は既に出版されている論文(英語)に基づいているので、インターネット等で得られる別刷(PDF)を読めば？
- ・博士論文を執筆していないものは答えようがありません。
- ・発表したいいくつかの論文の内容をまとめたもののため、それらの論文と内容が重なってしまうから。
- ・部局が方針として決めれば公開に用意する。
- ・プリントしたものしかない
- ・古い論文で既に様々な形で公開されている。
- ・古くて日本語ですので、PDFにする手間は経費のむだ使いだと思います。
- ・紛失しました。九州大学の以前の所属研究室に問い合わせる必要がありますが、他の方の手をわずらわせたくありません。
- ・文章が稚拙だから。
- ・別途出版予定であり、現段階では好評したくない
- ・他に発表しているためメリットがない。
- ・北海道大学図書刊行会から出版。契約上問題がなければ電子公開することはかまわない。
- ・殆どが報文で公表されたが、当時、価値がないとおもっていた一部のデータが研究に大きく関わっている。現在進行中のデータが公表になれば電子公開を希望したい。
- ・本学部の場合、既発表論文の抜刷であるので、学術的に価値がない。また公になれば2重投稿のおそれがある。
- ・本人からは希望しないが、制度として行うならかまわない。あまりにも古い内容なので科学的に意味がない。
- ・本人と主査、両方の同意が必要。主査の同意を得ることが困難なので、本人の同意のみで公開するというとすると、博士論文内容は誰にCOPYrightというデリケートなところがある。
- ・前向きに考えますが、現時点では様子を見たいと思います。
- ・まだ博士学位論文に取りくんでいない。
- ・まだ論文がないので
- ・まだ論文にしていないデータがあるため。
- ・未発表
- ・未発表データを提示している場合が多く、2年間くらいは未発表が望ましい。
- ・未発表のデータが含まれており、主な内容は紀要にまとめたため。

- ・未発表部分が多く、巻末にデータや図表があり、投稿時に使用予定。すべての投稿が終わったら希望したい。(目次や序論のみの公開をしているデータベース)
- ・昔の学位論文は公開を想定していないためいろいろ不都合がある。現在は可と思う。
- ・メリット・デメリットについて考えてるところです。いきなり学位論文全頁というよりも、学位取得者の論文要旨の公開はなされるべきであるし、メリットも多いと思う。が論文全頁は...すみません。
- ・持っていない
- ・世論が今後、論文と同等の扱いがされるなら可。でなければ未発表データとなり、盗用等(アイデアを含め)の恐れがあるので不可。
- ・論文として公開されている。
- ・論文などですべて公開済み。
- ・既に同じ内容のものが学術論文になっているのでわざわざ公開する意味がない。
- ・公開してもかまわない。
- ・根幹を成す部分は所属学会論文紙上で公開済みであり、学位論文のみが新規性を持ちうる部分は少ない。関連研究に対する要約として、いわば二次的著作物としての価値は否定できないが、その多くは「当時の最新の研究の要約」であり、現状における参照価値は高くはないと思慮する。著者自身が公開可能な環境を有しているケースでは、著者の望む形での公開が望ましい。貴図書館のような画一的な公開方法では、個別の要望に応える(たとえば、論文PDFファイル中から直接リンクを張りたい等)ことはおよそ不可能であり、単なる文献デジタルデータとしての価値しか見出せなくなるものと思慮する。上記と関連するが、PDF化に際し、文字を「テキスト」として抽出可能でなければ、オンライン上で公開し、参考資料をさらに検索する場合には不便であるところ、単なるスキャンしか意図していないようである。仮にOCR等で文字化を試みても、現状の認識率では修正作業が必須でありそれだけのコストをかけられるほどに、貴図書館および本学が取り組む課題であるとは思えない。以上は、理系の多くの学位取得者について共通と考えます。
- ・作成中
- ・指導教員の了解が得られないため。
- ・但し、私の場合1975年3月のもので手書です。電子化しても読みやすいとは言えないのではないかと思います。
- ・内容はすべて学術論文に発表済だから、そちらを引用すればよい。
- ・内容はすべて学術論文誌で発表済なので多大な費用をかけて公開する必要があるとは思われない。
- ・本人(著者)とコンタクトをとった上で、読んで欲しい。
- ・論文(少なくとも学位?査に適当と認められた雑誌に掲載されたもの)に関しては、様々の閲覧方法が既に存在するため、新ためて学位論文を取り上げる必要はないと思う。

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
 < < Q 5 HUSCAPでの電子公開を希望しない理由 > >

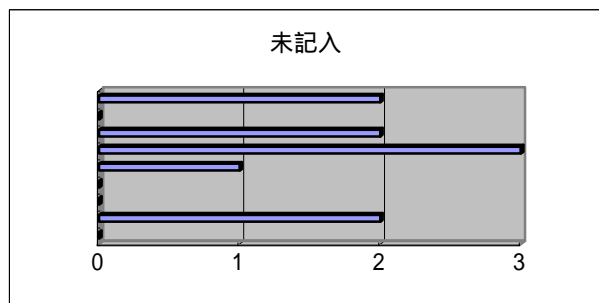
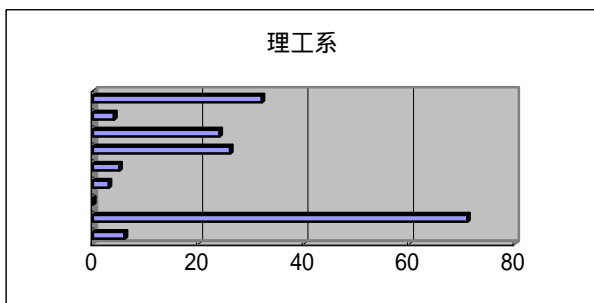
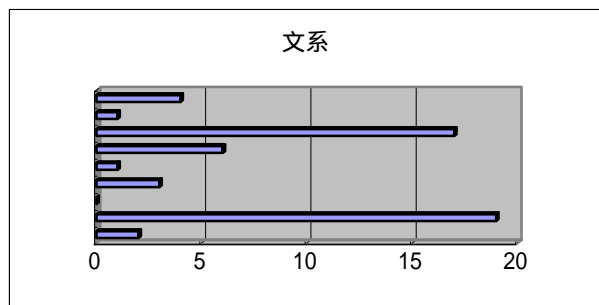
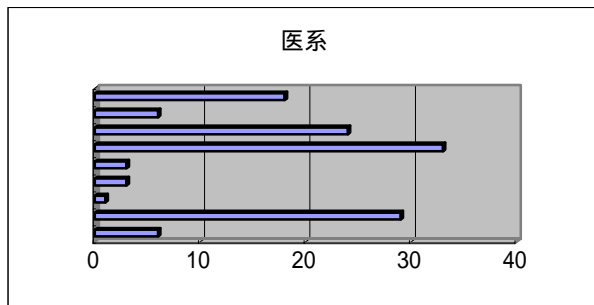
Q 5 回答（全体） Q 4で「希望しない」と答えた方（264人）が回答（複数回答）

	回答数	回答率
現在となっては内容に価値がない。または、内容に間違いがある。	56	21.2%
特許出願、事業化、商品化等の関係で、公開したくない。	11	4.2%
学位取得後、別途出版(または予定)しており、出版社との契約等により公開不可能である。	67	25.4%
学位取得に既発表論文の抜刷を用いたため、出版社に著作権がある。	68	25.8%
正当な引用の範囲を超えて他人の著作等を流用している恐れがある。	10	3.8%
プライバシーの侵害の恐れがある(症例、実地調査結果等)。	9	3.4%
研究対象(稀少動植物、自然環境等)の保護のため、公開したくない。	1	0.4%
その他	121	45.8%
無回答	14	5.3%



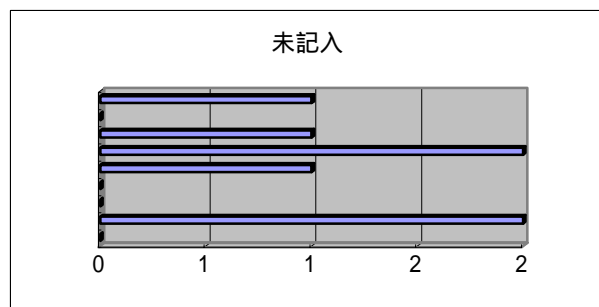
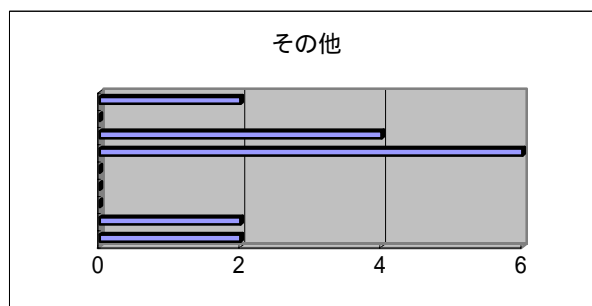
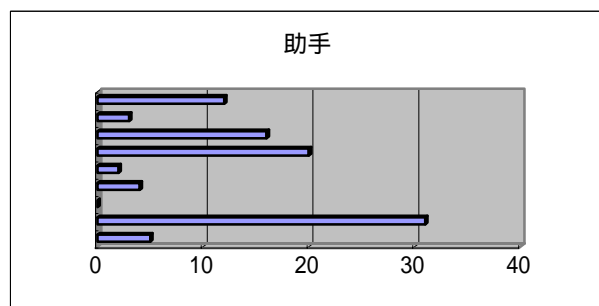
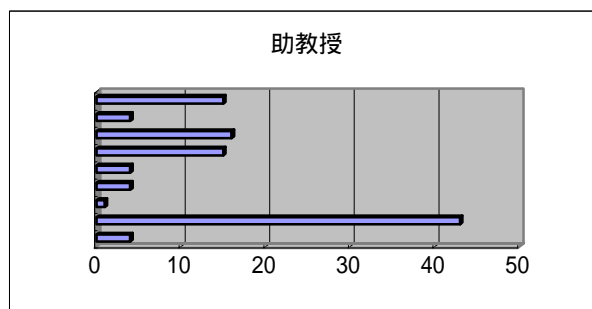
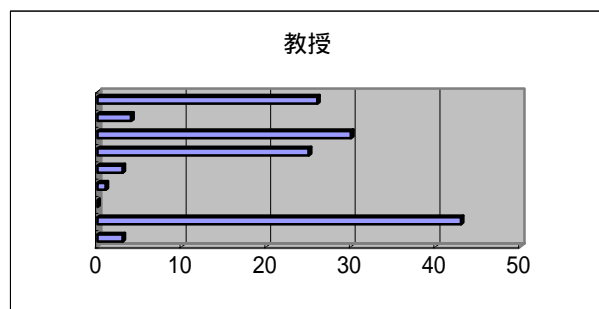
Q5 回答(分野別)

	医系	文系	理工系	未記入	合計
現在となっては内容に価値がない。または、内容に間違いがある。	18	4	32	2	56
特許出願、事業化、商品化等の関係で、公開したくない。	6	1	4	0	11
学位取得後、別途出版(または予定)しており、出版社との契約等により公開不可能である。	24	17	24	2	67
学位取得に既発表論文の抜刷を用いたため、出版社に著作権がある。	33	6	26	3	68
正当な引用の範囲を超えて他人の著作等を流用している恐れがある。	3	1	5	1	10
プライバシーの侵害の恐れがある(症例、実地調査結果等)。	3	3	3	0	9
研究対象(稀少動植物、自然環境等)の保護のため、公開したくない。	1	0	0	0	1
その他	29	19	71	2	121
無回答	6	2	6	0	14



Q5 回答(身分別)

	教授	助教授	助手	その他	未記入	合計
現在となっては内容に価値がない。または、内容に間違いがある。	26	15	12	2	1	56
特許出願、事業化、商品化等の関係で、公開したくない。	4	4	3	0	0	11
学位取得後、別途出版(または予定)しており、出版社との契約等により公開不可能である。	30	16	16	4	1	67
学位取得に既発表論文の抜刷を用いたため、出版社に著作権がある。	25	15	20	6	2	68
正当な引用の範囲を超えて他人の著作等を流用している恐れがある。	3	4	2	0	1	10
プライバシーの侵害の恐れがある(症例、実地調査結果等)。	1	4	4	0	0	9
研究対象(稀少動植物、自然環境等)の保護のため、公開したくない。	0	1	0	0	0	1
その他	43	43	31	2	2	121
無回答	3	4	5	2	0	



Q 5 HUSCAPでの電子公開を希望しない理由について

- ・全体的には「現在となっては価値なし(誤りあり)」、「別途出版による公開不可」、「既発表の抜粋使用」の3つの理由が、代表的となっている。
- ・分野別に見ると[文系]での代表的な理由は「別途出版による公開不可」である。[医系]、[理工系]は全体と同様となっている。
- ・身分別では全体の特徴と差異は無い。
- ・「その他」の代表的な意見は『情報が古い為、公開の価値無し』、『すでに雑誌等に論文の形式で発表済』、『既出の雑誌に著作権があるため』、『日本語で記述しているので意味ない』、『指導教官等自分以外の許可が無理(面倒)』、『費用対効果を考えると無意味』、『他大学で取得した為』等があった。

全体まとめ

- ・全体的には「公開に対して前向き」な割合が高くなっている。
- ・情報(学位論文)の特色としては「論文記述後に同様内容の論文を記述し公開(出版)されている」との意見が多く、この理由により公開不可となる可能性も高い。
- ・情報の利用性についても否定的な意見があった。
- ・否定的な意見には、その他の意見として理由が色々記述されているが、肯定的な回答の場合は、あまり理由の記述が見られなかった。しかし絶対数は肯定的な回答が多い事を考えると公開の意義は高いと思われる。

博士学位論文のインターネット上での公開に関するアンケート調査（分析）
<< その他、欄外部分等へのコメント >>

- ・2～3の誤植の訂正がありますので、後日該当ページの修正版をお送りさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。
- ・wordファイルの提供も可能です ご入用でしたらお知らせください
- ・ H19年学位取得予定です
- ・いくつかの章は、学位論文作成時にすでに印刷されていた論文(著作権は?)をつくり直したものです。(図や文章はそっくりです)自分でタイプしなおしたものです。コピー(抜刷?)とは異なると思いますが...これでもよいのでしょうか。一度ご連絡いただけますか。
- ・その他:設問3の回答参照 訳ではない 読みにくいものや手書きのものはwordprocessorで入力しましょう 但し、私のものは入力したものが手もとにある wordprocessorで入力しなおして国会図書館の予算を使うべきである
- ・どうでもいい
- ・どちらでもいい
- ・どのような影響が発生するか不安 様子を見てから
- ・な恐れがある。著作権上の問題がなければ、電子公開をするものではありません。
- ・アンダーバー
- ・以前に納入した博士論文には印刷上の手違いで落丁がありました。その後、訂正版をお届けしましたが、学部で保管することとなっているとのことで、戻ってきました。今回、公開するのは訂正版かどうか確認したく存じます。ご一報ください。
- ・可能であれば同意
- ・学位取得大学(Ph.D.)University of New Branswick,(Canada)
- ・学位申請者の負担にならないように すでにpdf化済です。ファイルサイズが大きいので(約8.5MB)http://***.***.*/thesis.pdfからダウンロードしていただければ幸いです
- ・学位論文は公開が基本であり、学位を出す大学で電子的な方法を含め公開するようにせいどかする
- ・企業のデータを用いています。論文にすることは許可をもらっていますか、ネットでの公開は難しいです。
- ・希望しますが学位を持っていません
- ・既に電子化したものを図書館に提供している。
- ・現在検討中、19日まで結論が出ないと思いますので、保留とさせていただきます。皆様の状況も知りたいです。
- ・現在未取得
- ・古すぎて見る人はいない アジア隣国ではデータを盗用するという話も聞いている 自分の博士論文は北大ではない 出身大学内旧??教官の同意はどうする。
- ・公開された際に、その旨をメールでご一報下さい
- ・残念乍ら、未だ博士を取得していませんので、本調査にはお答えできません。
- ・私が希望するわけではないが、大学の希望もあるなら反対はしない
- ・私の博士論文については、加筆修正したものを単著「身体の国民化」(北海道大学出版会2006年)として出版しています。HUSCAPにおいて公開して頂ける場合は、是非単著のほうを参照して頂きたいという点を明記してもらえると助かります。なお、それが不可能な場合、電子公開には同意いたしません。
- ・私の論文は、American Heart Association low copyrightを有しており、Web上ですでにFreeの論文として公開されています。
- ・自分のD論のPDFファイル(スキャンではなく、ワープロから直接PDF化したもの)は作ってあるので必要なら提供します。
- ・出版元(日本内科学会)からはTELで簡易に了解はとりました。
- ・多分プリンタ出力して、自分でファイルにとじたものの事だと思いますが、別途、改稿して学会誌に投稿、掲載されています。作業の手間がもったいないかと。
- ・電子化されていないため困難である
- ・当面
- ・農学部では農学部の紀要に学位論文を掲載している場合が多い。できれば、私の論文も紀要の方の公開を希望します。
- ・博士の学位を持っておりません。
- ・博士学位論文を執筆しておりませんので、未記入といたします。
- ・博士論文のPDFを保有しています。

- ・博士論文の著作権がどこにあるのか不明(多分、提出した大学だと思うが……)
- ・博士論文は公刊されており、各大学図書館に所蔵されています。現在も購入できます。それにもかかわらずPDF化するとなると出版社に連絡しなければならないのですが、どうしたらよろしいでしょうか。
- ・必ず参考文献となるようにお願いします。論文と異なりデータの無断使用につながります。データの信用？の？？？には商用あるいは著者の了承が必要なことを？って下さい。
- ・必要であればpdfファイル(一部画像は不鮮明)提供します。
- ・問題が顕在化します。学位論文内容には、主査のアイデア(知的財産)が多分に含まれているので申請者のみにcopyright力があるとするのはどうかという点を議論しないとならない。
- ・欄外記述
- ・理屈ではpublishされた論文で充分だから すべてを一Journalに発表しおわり、著者(学生)がOKならば可能と思う 自分の学位論文(北大理)は問題がない。一般的にはこの点が問題となるだろう。ただし、自分の学位論文は古いので、どれくらい有効か
- ・連絡頂ければ、PDF版を送付致します。
- ・論文は医学部にあります
- ・論文中の文書及び日本語要旨については、メール(Word)にて、写真・図表についてはコピーにて送付申し上げます。

海大図第394号

平成19年1月9日

各部局等の長 殿

附属図書館長

逸見 勝亮

[公印省略]

博士学位論文のインターネット上での公開に関する
アンケート調査のお願いについて（依頼）

日頃より附属図書館の事業にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

附属図書館では「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」形成の一環として、博士学位論文のインターネット上での公開についてのアンケート調査と、公開の希望のあった教員に対する公開支援を行うこととしました。公開希望のある博士学位論文は、附属図書館が電子化し、「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」に収録し公開します。

別途、対象となる教員の方々へ個別に調査票をお送りしますので、よろしくお取り計らいのほどお願いします。

海大図第 3 9 4 号
平成 1 9 年 1 月 9 日

殿

附属図書館長

逸 見 勝 亮

[公 印 省 略]

博士学位論文のインターネット上での公開に関する
アンケート調査について（依頼）

日頃より附属図書館の事業にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

附属図書館では「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」形成の一環として、本学所属教員の博士学位論文の公開支援を行うこととしました。

ついては、博士学位論文のインターネット上での公開についてのアンケート調査にご協力をお願いします。別紙調査票にご記入の上、添付封筒にて平成 1 9 年 1 月 1 9 日（金）までに担当係まで返送くださるようお願いします。調査票中、公開の希望があった博士学位論文は、附属図書館が電子化し、「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」に収録・公開します。経費の負担はありません。

担当係 附属図書館情報システム課システム管理係(内線 2524) 電子メールアドレス：repo@lib.hokudai.ac.jp
--

博士学位論文のインターネット上での公開に関する調査（全4問）

回答期限 平成19年1月19日（金） 回答提出先 附属図書館情報システム課システム管理係（内線2524）

本調査は、博士学位論文の電子公開・流通に関する、教員のみならずの意見をお伺いするとともに、ご希望に応じ博士学位論文の電子公開をすすめることを目的としたものです。

あてはまる項目の 印にチェックをした上、添付封筒にて担当係までお送りください。回答内容は下記電子化作業の基礎資料とするほか、集計値の公開を予定しています。他の用途には使用しません。

以下の設問4において「希望する」と回答された場合は、裏面「同意書」にも記入ください。附属図書館・部局等図書室に所蔵の博士学位論文を電子化し、「北海道大学学術成果コレクション HUSCAP」において公開させていただきます。この機会にぜひご検討ください。

教授・助教授・助手・

所属部局 _____ 身分 その他（ _____ ） 氏名 _____

設問1. 研究上、別の研究者の博士学位論文を読みたい場合がありますか。

ある。または、これまで経験はないが、あり得ると思う。
これまで経験はなく、これからはないと思う。
その他（ _____ ）

設問2. 別の研究者から、あなたの博士学位論文を読みたいという申し出があったら、どう思いますか。

読まれたくない。
自分に手間がかからないのであれば読んでもらってかまわない。
自分に手間がかからないのであれば読んでもらいたい。
たとえ送付等の手間がかかるとしても読んでもらいたい。
その他（ _____ ）

設問3. 博士学位論文のネット上での公開・相互利用についてどう思いますか。

望ましい。国、大学、部局などのレベルで制度化するのがよい。
望ましいが、公開したい人が公開すればよい。
特にメリットを感じない。
その他（ _____ ）

設問4. 貴方の博士学位論文を HUSCAP で電子公開することを希望しますか。

希望する。（裏面「同意書」にもご記入ください）
希望しない。

希望しない場合、理由についてあてはまるものを幾つでも選んでください。

現在となっては内容に価値がない。または、内容に間違いがある。
特許出願、事業化、商品化等の関係で、公開したくない。
学位取得後、別途出版（または予定）しており、出版社との契約等により公開不可能である。
学位取得に既発表論文の抜刷を用いたため、出版社に著作権がある。
正当な引用の範囲を超えて他人の著作等を流用している恐れがある。
プライバシーの侵害の恐れがある（症例、実地調査結果等）
研究対象（稀少動植物、自然環境等）の保護のため、公開したくない。
その他（ _____ ）

従来の学位論文の保存と利用

・所属大学の図書館または国立国会図書館にある冊子を閲覧できるのみ

→論文著者(学位取得者本人)の個別の許諾を得た上で複写物入手

利用が極めて困難

・冊子体のみでの保存

→紙の劣化(虫害やカビ害、物理的損傷など)

長期保存が困難

世界21カ国の76大学で博士学位論文公開の取り組みが進行中(サウサンプトン大学調査による)

大学ホームページからの無料オンライン公開

世界中から即時に本文閲覧可能

→読者と執筆者、双方の手続きが格段に省力化

Google™

学位論文の可視性向上

→タイトル・著者名等によりGoogle等からも検索可能

恒久的保管

→資料の劣化を防ぎ後世へ

博士学位論文電子公開同意書 記入上の注意

本同意書に基づき、附属図書館が博士学位論文を電子化し、「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP」において公開します。

- ・ 経費の負担はありません。
- ・ 著作権上の理由等により公開に支障がある可能性があると考えられる場合等には、個別にご相談させていただくことがあります。

(北海道大学で博士学位を取得された方)

- ・ 附属図書館・部局等図書室に所蔵の博士学位論文をスキャンし、電子化(PDF形式)します。

(北海道大学以外で博士学位を取得された方)

- ・ お手持ちの博士学位論文(冊子)を下記担当係へお送りください。電子化(PDF形式)ののち返却します。

担当係 附属図書館情報システム課システム管理係(内線 2524) 電子メールアドレス：repo@lib.hokudai.ac.jp
--

平成 年 月 日

博士学位論文電子公開同意書

私の博士学位論文を、附属図書館が電子化し、北海道大学学術成果コレクションで公開することに同意します。

所 属：

氏 名： 印

内線番号：

電子メール：